

滋賀県琵琶湖等水上安全条例の一部を改正する条例案要綱に対する意見・情報の募集結果及び条例案について

## 1 意見・情報の募集実施結果

令和5年12月16日（土）から令和6年1月15日（月）までの間、滋賀県民政策コメント制度に関する要綱に基づき、「滋賀県琵琶湖等水上安全条例の一部を改正する条例案要綱」についての意見・情報の募集を行った結果、3名の方から、計9件の意見・情報が寄せられました。

これらの意見に対する滋賀県警察の考え方は別紙「滋賀県琵琶湖等水上安全条例の一部を改正する条例案要綱に対する意見・情報の募集結果と滋賀県警察の考え方について」のとおりです。

## 2 今後の予定

2月14日（水） 県議会2月定例会議上程

3月8日（金） 土木交通・警察・企業常任委員会

3月下旬 改正条例公布（2月議会閉会の約1週間後）

「滋賀県琵琶湖等水上安全条例の一部を改正する条例案要綱に対する意見・情報の  
募集結果と滋賀県警察の考え方について」

No	項目	御意見等（要約）	滋賀県警察の考え方
改正の概要に関するもの			
1	(4)	「事故防止のための必要な応急措置」とはどのようなものを想定しているのですか。	応急措置の例示として、酒気を帯びた状態で直接操船しようとする者に正常な操船ができるようになるまで操船しないよう口頭で指示することをはじめ、操船を代わりの者に依頼することや、出航元のマリーナ等の関係者に本人や船舶を引き取らせる等のことを想定しています。
2	(7) (8) (9)	罰則が甘いのではないかと思います。どの程度が適正なのかは議論しなければなりません、もっと罰則を厳しくすべきではないでしょうか。	酒気帯び操船等の禁止や安全確保等の措置に対する罰則については、同様の条例を制定している都県との均衡も考慮しております。 罰則を強化することについては、今後の情勢を見極め、必要性を検討していくこととします。
その他			
1	条例第9条の3 第3項	条例違反の操船者が多く、9条の3の第3項（プレジャーボートの操船者の守るべき事項）における後方安全の監視がされていません。	水上交通の安全確保や事故防止のため、ご意見のような危険操船の禁止に関しても条例で規定しており、周知や指導取締りに努めているところですが、今後も関係機関とも連携しながら、法令遵守が徹底されるよう取り組んでまいります。
2		酒酔い操船の罰則強化等をしているが、実効性を高めるための取締りをして抑止力を発揮してください。	条例改正で罰則を強化・新設したことによる抑止効果を最大限に発揮するためには、違反行為に対しては積極的に取締りを行っていくことが必要と考えます。 そこで、水上警察隊をはじめとする警察活動を強化するとともに、国や県の関係機関と協働した合同パトロールや取締りを実施してまいります。
3		道路交通法のように操船者だけでなく同乗者も罰するようにすべきです。	飲酒操船の同乗者などを処罰することについては、免許制度が陸上と水上で異なるため、個別の事案に応じて刑法（共同正犯、幫助犯、教唆犯）の適用について検討することとしています。

4	<p>条例第17条の2 第2項 条例第20条</p>	<p>水上交通の安全を確保するため、水上オートバイに対する操船許可区域のようなものをしっかり設定してください。</p>	<p>現状においても水上交通の安全を確保するため、本条例に基づき水上オートバイをはじめとする特定の船舶の航行等を制限しているところですが、今後も情勢に応じて必要な規制を検討していくこととします。</p>
5	<p>条例第20条</p>	<p>無謀操船が目立つ水上オートバイに対しては速度制限を法律や条例で規制すべきです。</p>	<p>速度制限については、現状においても水上交通の安全を確保するため、地域を定めて水上オートバイをはじめとする特定の船舶の速力等を制限しているところですが、今後も情勢に応じて必要な規制を検討していくこととします。</p>
6		<p>酒気帯び操船等の禁止に関する条例改正を県外者に対して周知はどのようにしていくのですか。</p> <hr/> <p>条例改正の広報を大々的にすることで抑止力を高めてください。</p>	<p>県外者等への条例改正の周知については、県内外の船舶免許の取得・更新の機会にポスターやリーフレットを活用した指導を依頼するほか、高速道路のサービスエリアや主要道路沿いの電光掲示板への掲示、インターネットを活用した情報発信等により幅広い周知に努めます。</p> <p>また、湖上及び湖岸からの警ら活動時におけるマイク広報や声かけを通じた周知にも努めます。</p>
7		<p>湖岸で飲食をしている水上オートバイ等の利用客に対して注意喚起の呼びかけをしてください。</p>	<p>湖岸における利用者に対する安全指導については、これまでから警察官等による船舶操船者や遊泳客等に対する声かけや指導を行っているところですが、条例の改正周知も踏まえ、より一層の声かけの強化に取り組んでまいります。</p>

# 滋賀県琵琶湖等水上安全条例の一部を改正する条例案概要

～ 酒気帯び操船等の禁止・罰則の引き上げ ～

(令和6年7月1日施行予定)

## 条例の目的

琵琶湖（内湖および入江を含む。）および瀬田川洗堰から上流の瀬田川（以下「琵琶湖等」という。）における水上交通の安全を確保し、あわせて水上交通に起因する障害の防止に資するとともに、水上の使用に関する事故の防止を図ることを目的としています。

## 条例改正の必要性

近年、琵琶湖上において、酒気を帯びた状態の操船者による水上オートバイ等の危険な操船等が課題となっていることを踏まえ、酒気を帯びた状態での船舶の操船を禁止するとともに、正常な操船ができないおそれがある状態での船舶の操船に対する罰則の引き上げ等を行うことにより、琵琶湖等における酒気帯びその他の危険な操船を排除する実効性を高め、水上の安全確保と船舶事故防止を図ろうとするものです。

## 主な改正点



【現行】 酒酔い操船等の禁止（条例第8条の2）

### 【条文】

船舶の操船者は酒に酔った状態その他正常な操船ができないおそれがある状態で、操船してはならない。

### 【罰則】

2月以下の懲役または30万円以下の罰金

## 改正後

### 禁止行為等

### 罰則

#### 新規

- 1 酒気を帯びた状態での操船の禁止（第8条の2第1項）



#### ○酒酔い操船（全船舶対象）

※アルコールの影響により正常な操船ができないおそれがある状態（3月以下の懲役または50万円以下の罰金）

#### ○酒気帯び操船（動力船に限る。）

※規則で定める程度以上にアルコールを保有する状態（3月以下の懲役または30万円以下の罰金）

#### 改正

- 2 薬物の影響その他の理由により正常な操船ができないおそれがある状態での操船の禁止（第8条の2第2項）



- 薬物の影響その他の理由により正常な操船ができないおそれがある状態での操船（全船舶対象）（3月以下の懲役または50万円以下の罰金）

#### 新規

- 3 安全確保等の措置（第8条の3）  
・呼気検査  
・操船者への指示等応急の措置



- 呼気検査を拒否または妨げた場合（20万円以下の罰金）

#### 改正

- 4 遊興船舶等設置者（貸し船事業者等）が執るべき措置（第16条第2項第1号）

酒気を帯びた状態または薬物の影響その他の理由により正常な操船ができないおそれがある状態にある者に対する遊興船舶等の貸出しの禁止

#### 改正

- 5 遊興船舶等保管業者（マリーナ）が執るよう努めるべき措置（第16条の2第2号）

酒気を帯びた状態または薬物の影響その他の理由により正常な操船ができないおそれがある状態にある者に対する操船の禁止に係る指導

議第 号

滋賀県琵琶湖等水上安全条例の一部を改正する条例案

上記の議案を提出する。

令和6年 月 日

滋賀県知事 三日月 大 造

---

滋賀県琵琶湖等水上安全条例の一部を改正する条例

滋賀県琵琶湖等水上安全条例（昭和30年滋賀県条例第55号）の一部を次のように改正する。

第8条の2の見出し中「酒酔い操船等」を「酒気帯び操船等」に改め、同条中「船舶の操船者は、酒に酔った状態その他の」を「何人も、前項に規定する場合のほか、薬物の影響その他の理由により、」に、「操船」を「船舶を操船」に改め、同条を同条第2項とし、同条に第1項として次の1項を加える。

何人も、酒気を帯びた状態で船舶を操船してはならない。

第8条の2の次に次の1条を加える。

（安全確保等の措置）

第8条の3 警察官は、船舶に乗船し、または乗船しようとしている者が前条第1項の規定に違反して船舶を操船するおそれがあると認められるときは、次項の規定による措置に関し、その者が身体に保有しているアルコールの程度について調査するため、公安委員会規則で定めるところにより、その者の呼気の検査をすることができる。

2 警察官は、前項の検査を行った場合において、当該船舶の操船者が前条第1項の規定に違反して船舶を操船するおそれがあるときは、その者が正常な操船ができる状態になるまで船舶の操船をしてはならない旨を指示する等水上交通の安全を確保し、または事故を防止するため必要な応急の措置を執ることができる。

第16条第2項第1号および第16条の2第2号中「酒に酔った状態その他の」を「酒気を帯びた状態または薬物の影響その他の理由により」に改める。

第25条第1項および第2項を次のように改める。

次の各号のいずれかに該当する者は、3月以下の懲役または50万円以下の罰金に処する。

- (1) 第8条の2第1項の規定に違反して船舶を操船した者で、その操船をした場合において酒に酔った状態（アルコールの影響により正常な操船ができないおそれがある状態をいう。）にあつたもの
- (2) 第8条の2第2項の規定に違反して船舶を操船した者
- (3) 第10条前段の規定に違反して、航行による事故が発生したとき必要な措置を執らなかつた船舶の操船者

2 第8条の2第1項の規定に違反して船舶（動力船に限る。）を操船した者で、その操船をした場合において身体に公安委員会規則で定める程度以上にアルコールを保有する状態にあつたものは、3月以下の懲役または30万円以下の罰金に処する。

第25条第3項中「者は」を「場合には、当該違反行為をした者は」に改め、同項各号中「者」を「とき。」に改め、同条第4項中第3号を削り、第2号を第3号とし、第1号を第2号とし、同項に第1号として次の1号を加える。

(1) 第8条の3第1項の規定による警察官の検査を拒み、または妨げた者

第25条中第5項を第6項とし、第4項の次に次の1項を加える。

5 第11条第1項または第12条第1項の規定による届出（第11条第1項第1号に掲げる行為に係る届出を除く。）をせず、または虚偽の届出をしたときは、当該違反行為をした者は、20万円以下の罰金に処する。

第26条中「第4項第3号」を「第5項」に改める。

#### 付 則

1 この条例は、令和6年7月1日から施行する。

2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

## 滋賀県琵琶湖等水上安全条例の一部を改正する条例案要綱

### 1 改正の理由

近年、琵琶湖上において、酒気を帯びた状態の操船者による水上オートバイ等の危険な操船等が課題となっていることを踏まえ、酒気を帯びた状態での船舶の操船を禁止するとともに、正常な操船ができないおそれがある状態での船舶の操船に対する罰則の引上げ等を行うため、滋賀県琵琶湖等水上安全条例（昭和30年滋賀県条例第55号）の一部を改正しようとするものです。

### 2 改正の概要

- (1) 何人も、酒気を帯びた状態で船舶を操船してはならないこととします。（第8条の2関係）
- (2) 何人も、(1)の場合のほか、薬物の影響その他の理由により、正常な操船ができないおそれがある状態で船舶を操船してはならないこととします。（第8条の2関係）
- (3) 警察官は、船舶に乗船し、または乗船しようとしている者が(1)に違反して船舶を操船するおそれがあると認められるときは、(4)による措置に関し、その者が身体に保有しているアルコールの程度について調査するため、公安委員会規則で定めるところにより、その者の呼気の検査をすることができることとします。（第8条の3関係）
- (4) 警察官は、(3)の検査を行った場合において、当該船舶の操船者が(1)に違反して船舶を操船するおそれがあるときは、その者が正常な操船ができる状態になるまで船舶の操船をしてはならない旨を指示する等水上交通の安全を確保し、または事故を防止するため必要な応急の措置を執ることができることとします。（第8条の3関係）
- (5) 遊興船舶等を設けて人に利用させる者は、水上交通の安全のため、操船しようとする者が酒気を帯びた状態または薬物の影響その他の理由により正常な操船ができないおそれがある状態であると認められるときは、遊興船舶等を貸し出さないとの措置を執らなければならないこととします。（第16条関係）
- (6) 遊興に供する船舶を保管するための施設または設備を設け、業として人に利用させようとする者は、水上交通の安全のため、操船しようとする者に対し、酒気を帯びた状態または薬物の影響その他の理由により正常な操船ができないおそれがある状態で操船しないよう指導するとの措置を執るよう努めなければならないこととします。（第16条の2関係）
- (7) 次のいずれかに該当する者は、3月以下の懲役または50万円以下の罰金に処することとします。（第25条関係）

- ア (1)に違反して船舶を操船した者で、酒に酔った状態(アルコールの影響により正常な操船ができないおそれがある状態をいう。)にあったもの
  - イ (2)に違反して船舶を操船した者
- (8) (1)に違反して船舶(動力船に限る。)を操船した者で、身体に公安委員会規則で定める程度以上にアルコールを保有する状態にあったものは、3月以下の懲役または30万円以下の罰金に処することとします。(第25条関係)
- (9) (3)による警察官の検査を拒み、または妨げた者は、20万円以下の罰金に処することとします。(第25条関係)
- (10) その他
- ア この条例は、令和6年7月1日から施行することとします。
  - イ この条例の施行に関し必要な経過措置を定めることとします。
  - ウ その他必要な規定の整理を行うこととします。



滋賀県琵琶湖等水上安全条例新旧対照表

旧	新
<p>第1条～第8条 省略 (<u>酒酔い操船等の禁止</u>)</p> <p>第8条の2 (新設) 船舶の操船者は、<u>酒に酔った状態その他の正常な操船ができないおそれがある状態で、操船してはならない。</u></p> <p>(新設)</p> <p>第9条～第15条 省略 第16条 省略</p> <p>2 琵琶湖等またはその付近地を利用して遊興船舶等を設けて人に利用させる者は、前条の措置のほか、水上交通の安全のため、次に掲げる措置を執らなければならない。</p> <p>(1) 操船しようとする者が<u>酒に酔った状態その他の正常な操船ができないおそれがある状態であると認められるときは、遊興船舶等を貸し出さないこと。</u></p> <p>(2) 省略</p>	<p>第1条～第8条 省略 (<u>酒気帯び操船等の禁止</u>)</p> <p>第8条の2 <u>何人も、酒気を帯びた状態で船舶を操船してはならない。</u></p> <p>2 <u>何人も、前項に規定する場合のほか、薬物の影響その他の理由により、正常な操船ができないおそれがある状態で船舶を操船してはならない。</u> (<u>安全確保等の措置</u>)</p> <p>第8条の3 警察官は、船舶に乗船し、または乗船しようとしている者が前条第1項の規定に違反して船舶を操船するおそれがあると認められるときは、<u>次項の規定による措置に関し、その者が身体に保有しているアルコールの程度について調査するため、公安委員会規則で定めるところにより、その者の呼気の検査をすることができる。</u></p> <p>2 警察官は、前項の検査を行つた場合において、<u>当該船舶の操船者が前条第1項の規定に違反して船舶を操船するおそれがあるときは、その者が正常な操船ができる状態になるまで船舶の操船をしてはならない旨を指示する等水上交通の安全を確保し、または事故を防止するため必要な応急の措置を執ることができる。</u></p> <p>第9条～第15条 省略 第16条 省略</p> <p>2 琵琶湖等またはその付近地を利用して遊興船舶等を設けて人に利用させる者は、前条の措置のほか、水上交通の安全のため、次に掲げる措置を執らなければならない。</p> <p>(1) 操船しようとする者が<u>酒気を帯びた状態または薬物の影響その他の理由により正常な操船ができないおそれがある状態であると認められるときは、遊興船舶等を貸し出さないこと。</u></p> <p>(2) 省略</p>

第16条の2 琵琶湖等またはその付近地を利用して、遊興に供する船舶を保管するための施設または設備を設け、業として人に利用させようとする者は、水上交通の安全のため、次に掲げる措置を執るよう努めなければならない。

(1) 省略

(2) 操船しようとする者に対し、酒に酔った状態その他の正常な操船ができないおそれがある状態で操船しないよう指導すること。

(3)・(4) 省略

第17条～第24条 省略

(罰則)

第25条 第10条前段の規定に違反して、航行による事故が発生したとき必要な措置を執らなかつた船舶の操船者は、3月以下の懲役または50万円以下の罰金に処する。

2 第8条の2の規定に違反した者は、2月以下の懲役または30万円以下の罰金に処する。

3 次の各号のいずれかに該当する者は、30万円以下の罰金に処する。

(1) 第9条の2の規定に違反した者

(2) 第13条第1項もしくは第2項、第18条または第19条第2項の規定による公安委員会の命令に従わなかつた者

(3) 第17条第1項の規定による公安委員会の指示に従わなかつた者

第16条の2 琵琶湖等またはその付近地を利用して、遊興に供する船舶を保管するための施設または設備を設け、業として人に利用させようとする者は、水上交通の安全のため、次に掲げる措置を執るよう努めなければならない。

(1) 省略

(2) 操船しようとする者に対し、酒気を帯びた状態または薬物の影響その他の理由により正常な操船ができないおそれがある状態で操船しないよう指導すること。

(3)・(4) 省略

第17条～第24条 省略

(罰則)

第25条 次の各号のいずれかに該当する者は、3月以下の懲役または50万円以下の罰金に処する。

(1) 第8条の2第1項の規定に違反して船舶を操船した者で、その操船をした場合において酒に酔った状態（アルコールの影響により正常な操船ができないおそれがある状態をいう。）にあつたもの

(2) 第8条の2第2項の規定に違反して船舶を操船した者

(3) 第10条前段の規定に違反して、航行による事故が発生したとき必要な措置を執らなかつた船舶の操船者

2 第8条の2第1項の規定に違反して船舶（動力船に限る。）を操船した者で、その操船をした場合において身体に公安委員会規則で定める程度以上にアルコールを保有する状態にあつたものは、3月以下の懲役または30万円以下の罰金に処する。

3 次の各号のいずれかに該当する場合には、当該違反行為をした者は、30万円以下の罰金に処する。

(1) 第9条の2の規定に違反したとき。

(2) 第13条第1項もしくは第2項、第18条または第19条第2項の規定による公安委員会の命令に従わなかつたとき。

(3) 第17条第1項の規定による公安委員会の指示に従わなかつたとき。

- (4) 第 17 条第 2 項の規定による警察官の指示に従わなかつた者
- (5) 第 17 条の 2 第 2 項の規定に違反した者
- (6) 第 17 条の 2 第 5 項の規定に違反した者
- (7) 第 20 条の規定による公安委員会の指定または制限に違反して船舶を操船した者

4 次の各号のいずれかに該当する者は、20 万円以下の罰金に処する。  
(新設)

(1)・(2) 省略

(3) 第 11 条第 1 項または第 12 条第 1 項の規定による届出 (第 11 条第 1 項第 1 号に掲げる行為に係る届出を除く。) をせず、または虚偽の届出をした者

(4) 省略

(新設)

5 省略

(両罰規定)

第 26 条 法人の代表者または法人もしくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人または人の業務に関して前条第 3 項 (第 4 号を除く。) または 第 4 項第 3 号の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人または人に対しても同条の罰金刑を科する。

付則 省略

(4) 第 17 条第 2 項の規定による警察官の指示に従わなかつたとき。

(5) 第 17 条の 2 第 2 項の規定に違反したとき。

(6) 第 17 条の 2 第 5 項の規定に違反したとき。

(7) 第 20 条の規定による公安委員会の指定または制限に違反して船舶を操船したとき。

4 次の各号のいずれかに該当する者は、20 万円以下の罰金に処する。

(1) 第 8 条の 3 第 1 項の規定による警察官の検査を拒み、または妨げた者

(2)・(3) 省略

(削除)

(4) 省略

5 第 11 条第 1 項または第 12 条第 1 項の規定による届出 (第 11 条第 1 項第 1 号に掲げる行為に係る届出を除く。) をせず、または虚偽の届出をしたときは、当該違反行為をした者は、20 万円以下の罰金に処する。

6 省略

(両罰規定)

第 26 条 法人の代表者または法人もしくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人または人の業務に関して前条第 3 項 (第 4 号を除く。) または 第 5 項の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人または人に対しても同条の罰金刑を科する。

付則 省略